

自己評価表

1. 経営・運営

新制度移行から7年目。収支の状況、運営の流れ等については安定的に運営できてはいるが、少子化の影響で園児数は想定以上に減っている。令和7年度においては、定員の見直しを行う必要があり、1号認定児を大幅に減とすることとなった。保育の運営においては、放課後の保育の運営についての課題もあり、ゆうがお教室・ひまわり教室の質について丁寧に考えて、人材の配置を検討していく必要がある。

1年間のカリキュラムも安定的に充実させることができ、行事等の運営の方法についても、保護者との共通理解が深まり、よりよい形を見いだしていくことができたと評価できる。ICTの活用についても定着しており、運用もスムーズである。広報としてのインターネット・SNSの活用については、模索しているが、人材の面でも余裕がなく、思うような形にはまだたどりつかないのが現状である。日頃の保育の様子や、子どもの育ちが伝わるような、記録と発信のあり方を考えていきたい。経営としては、安定的な運営ではあるが、借入金の返済、修繕工事等々の支出や人件費・光熱費等の増の影響も明らかである。物価の上昇による影響も否めない。購入した物件は、子どもたちの遊び場として、少しずつ活用がすすみ、食育活動や造形活動、子育て相談の場としても機能はじめている。地域に根ざした子育て拠点としての環境整備には至らないものの、本園舎・分園舎とともに、地域開放に努めていくこととする。

2. 教育・保育

分園舎における、乳児保育については、一定の質が確保できるようになり、4月当初からの受入人数も増やすことができた。以上児について、2クラス体制が主流になってきたことにより、これまでとは異なる工夫も必要になってきているが、学年としてはコンパクトに連携ができる状況とも捉えられる。午後の保育・夏季保育のあり方も少しずつ工夫をしながら、子どもたちが落ち着いて過ごすことのできる環境作りを模索している。保育の質の向上にあたっては、園内研修の充実を図りたいものの、多数が揃って研修できる時間の確保が難しくなり、チームで話し合う時間を見いだしながら、工夫を重ねているところである。フリー ルームが増え、好きな遊びの環境が充実してきたことで、子どもたちの遊びも多様になり、日々の保育や行事の取り組みについても、子どもの主体性を尊重できるようになってきている。一方で、5年目前後の保育教諭の出産が増え始め、園内リーダー（ミドルリーダー）の育成においては、無理ができない状況であった。当面の期間は、新任から3年目の保育者育成に重点をおきつつ、今後の核となる人材育成を見据えて、環境を整えていく必要がある。

3. 組織・その他

ICTを活用することで、情報共有がスムーズになる中で、一方的な情報共有に留まる傾向がある。多忙な中でも、応答的なやりとりを大切にすることや、話合いの時間を確保することについて、意識的に考えていきたい。